

昭和62年度

兵庫県生物学会夏期研修会報告

目的 南淡路の自然観察
期日 昭和62年8月10日(月)～11日(火)
場所 諭鶴羽山
講師 樋賀正夫先生
日程 8:45 民宿「おれんじ荘」前集合
9:00～11:30 おれんじ荘から諭鶴羽神社へ観察登山
11:30～12:30 昼食
12:30～14:00 諭鶴羽神社境内の社叢林観察
14:00～14:20 マイクロバスで下山
14:30 解散

現代生物学ゼミナール報告

研修部

第127回 「教育研究施設としての水族園」 62.10.19

神戸市立須磨水族園

塚本 博一

第12回 科学施設セミナー…上記水族園

本例会は、兵高教研の部会研修会として実施した。

魚類中心の水族館から、ラッコもいる水族園へのイメージ・チェンジが成功したのか、兎に角大変な人出で、幼稚園の遠足、婦人会の研修旅行、更には農協の観光ツアーと、老若男女が押しかけたといった賑わいだった。

研修室で開いた、開かれた水族園の視点で見ると、大波の水槽、昼夜の魚の行動を並列させて見せる水槽など、色々新しい試みがなされていた。自由に園内を見学した後、3班に分かれて楽屋裏の装置を見学し、飼育の苦労話をうかがった。

この科学施設セミナーは、毎回好評で、今回も106名の参加があり盛況であった。また、会員の中に水産学部出身者がかなり増えてきた様子で、会が終わった後も塚本氏を囲んで話が弾んでいた。今後、水族園を大いに活用することを期待して、10時～16時の一日を費やした見学会を終ることができた。

(講演内容は、高校教育研究会生物部会誌に詳報します。)

第128回 「神戸近郊の野鳥たち」

62.11.22

神戸女学院 宮本 忠之

第14回 兵庫県生物学会公開講座

兵庫県私学会館

ここ数年は、西播(姫路)、但馬(豊岡)、東播(明石)の各支部で、公開講座を開講してきた。今回、第14回は、4年振りに神戸で開くことになった。

開催の通知は、会員には官製葉書200枚、私製葉書約100枚で、神戸、阪神支部の会員と、西播、東播の一部、各支部長宛と、神戸市立中学校理科科主任宛は市の連絡箱で案内状を送付した。なお、神戸、朝日新聞には市民告知板への掲載を依頼したが、神戸新聞社では、北神戸支局長三木 進氏のご高配を得て、市民版に大きく取り上げていただき、市民の皆さんにアピールすることができた。三木氏に心からお礼を申し上げる。県教委と神戸市教委に後援名義使用申請をして許可を得た。

11月22日(日)は、本年最後の連休とあって、中々人が集まらないのではないかと懸念していたが、神戸新聞の報道のお蔭か、事前に十数件も電話で問い合わせがあるなど、何となくムードが盛り上がり、当日は予想を上回って100名余りの参加者があった。

講演は2部に分かれ、第一部「鳥類の進化」、第二部「神戸近郊の鳥たち」と、スライドの映写を主として進められたが、珍しい資料の写真や、興味のある鳥の生態をスライドで見せていただきながら、約1時間30分の講演はあっという間に終わってしまった。

鳥類の進化について、鳥の先祖といわれる始祖鳥が、何故化石を多く残さなかったのか。外敵がいず、生活環境にめぐまれると、鳥類は大型になり飛ぶ能力を失うとのことで、身長3.5メートルにもなったモア。そして、人間の食欲の犠牲になって絶滅していったブリタリウスなど、エピソードを混じえた大変興味深いものであった。二部では、永年鳥の生態を研究されてきた、貴重な記録のスライドで神戸近郊の鳥たちを解説していただいた。ヒヨドリ、ホオジロ、メジロ、シジュウカラ、エナガ、ウグイスと54種余りの鳥たちの特徴をスライドで目のあたりにし、ウグイス色はメジロの体色だなど、新しい知識を得ることができた。

また、鳥たちに興味と関心があれば、何も上等な双眼鏡がなくても、極く安価なものでバード・ウォッチングはできるのだというお話は、中々味わい深いものであった。(波野)